

平成30年度「日本一の読書県」を目指した総合推進事業の紹介

1 目的

県立図書館や学校、家庭、地域等との連携による事業を展開し、子どもから大人まで、生涯にわたって読書に親しむ環境づくりを推進することで、「日本一の読書県」を目指す。

2 実績（実施日・内容等）

(1) 啓発に関する事業

① 読書活動推進に係る公募制による県民提案型モデル事業（「本から始まる交流」委託事業） （生涯学習課）

目的	県民による（公的機関を除く）主体的な、本を介した大人の読書交流を図る場づくりやその充実をモデル的に推進する。	
日時	9月～1月第2土曜日 15時～18時（全5回）	11月8日（日） 10時～16時
対象	一般県民	一般県民
会場	南宮崎駅前ビルアーケード街「東なる」	串間市立図書館・串間神社・吉松邸
内容	<p>勝手に文豪を読み直す ミニ講演会街角ブックトーク</p>  <p>※ 夏目漱石等文豪の作品を県内講師が解説後コディネーターによる対談、参加者との意見交換を行う</p>	<p>ウィキペディアタウン in 串間</p>  <p>※ ウィキペディアの記事作成方法についての県外講師による講義→地元の文化財等を巡る→関連する本を読み込み記事を作成する</p>
参加者数	※定員各30名	30名
委託先	特定非営利活動法人 みやざき教育支援協議会	新しくしま人応援隊
参加者の感想等	文学について様々な意見が述べられていて、こんなにも読書を愛している方がいらっしやることに改めて気付かされた。	皆で現地を見た後、図書館で調べ、本を読みこみようやく自分の言葉に編集したものがウィキペディアへの投稿により全世界に発信できて楽しかった。

② 「宮崎発 Live!Library2018 図書館フォーラム」(生涯学習課)



目的	図書館の意義について、図書館、行政、大学、学校関係者、一般県民が共に考える。
日時	11月11日(日) 13:15~16:35
対象	一般県民
会場	県立図書館 2階 研修ホール
内容	<p>1 Live!Library 県立図書館の最近の動き 宮崎県立図書館</p> <p>2 日本一の読書県を目指して 宮崎県教育庁生涯学習課</p> <p>3 講演第一部 「学校図書館が教育を変える～学校司書がつなげて広がる高校生の学びと読書～」 講師 木下通子氏(埼玉県立浦和第一女子高等学校担当部長兼主任司書) インタビュアー水谷もりひと氏(みやざき中央新聞編集長)</p> <p>4 講演第二部 「“まち”と“ひと”に寄り添う図書館」 講師 手塚美希氏(岩手県紫波町図書館主任司書) インタビュアー杉田剛氏(宮崎商工会議所専門経営指導センター課長補佐)</p>
参加者数	95名(事務局除く) ※アンケート回収48内訳(学校13名・公立図書館12名・行政9名・NPO・ボランティア7名 その他7名)
感想等	<p>学校図書館に学校司書がいることの重要性を改めて感じた。</p> <p>公立図書館のカチカチのイメージを破り、ありとあらゆる連携を図る、図書館の未来像のような先駆的な取組に圧倒された。</p>

③ 宮崎県生涯読書活動推進計画の策定 (生涯学習課) 別添のとおり

④ 宮崎県読書活動推進委員会の開催 (生涯学習課) 平成31年2月19日(火)(本日)

⑤ 高校生ビブリオバトル大会の実施（高校教育課）



目的・内容	<p>高校生による「ビブリオバトル」（知的書評合戦）を通して、読書に親しむ態度を育成する。</p> <p>各校の代表生徒が、自分のおすすめの本を紹介し、フロアの聴衆から「読みたくなった！」と支持された本がチャンプ本となる。優勝した生徒は全国大会へ出場する</p>
日時	10月20日（土） 13時～16時
対象	高校生他一般県民
会場	宮崎市若草通商店街
参加数	<p>バトラー 13名</p> <p>参加者 120名（事務局除く）</p>
チャンプ本	橋本治『桃尻語訳「枕草子」』
所感	<p>「ビブリオバトル」は、「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに全国に広がっているが、ライブ感覚の楽しさもあって、積極的に参加する高校生も増えつつある。今後は、高校生の主体的・自治的なイベントとしてさらに盛り上げていきたい。</p>

⑥「本で世代をつなぐ」読書活動推進事業（県立図書館）

<p>目的・内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読書離れの傾向が見られる中・高校生を中心とした各世代を対象に、本の魅力に触れ、生きる力や想像力を育む機会を提供し世代をつなぐ読書活動を促進することを目的として実施。 ・中学生・高校生・一般県民を対象に、中・高校生に伝えたい「おすすめの1冊」（作文）を募集し、審査の上、入選者15名（各世代5名）を決定。入選者のうち6名（各世代2名）については発表及び大口玲子氏（歌人）との対談を行い、参加者とともに発表内容をさらに深め、読書の素晴らしさを味わってもらった。 ・入選者15名の作文等を収めたブックリストを作成して県内全ての中学校・高等学校等に配布し、「おすすめの1冊」の普及を図った。
<p>実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・応募状況 中学生の部 475名／高校生の部 955名／一般の部 31名／計 1,461名 ・トークセッション 日時：平成30年10月6日(土) 13:00～14:50 会場：県立図書館2階研修ホール ※「新館30周年記念 みどりの図書館フェスタ」の中で実施 
<p>績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ※ ブックリスト 作成部数1,000部 (県立図書館HPにもPDFを掲載)  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>（「はじめに」より）当館では、読書離れの傾向が見られる中高生を中心とした各世代を対象に、本の魅力に触れ、生きる力や想像力を育む機会を提供し世代をつなぐ読書活動を推進していくために、中学生・高校生・一般の方を対象に、中高生に伝えたい「おすすめの1冊」（400字作文）の募集を行いました。</p> <p>中学・高校・一般の3部門に総計1461名の応募があり、審査の結果、各世代5名の入選作品を決定しここに「私のすすめるこの1冊ブックリスト」を作成しました。</p> <p>世代を超えて多くの方に本の魅力に触れる機会を提供できたら、本とのすてきな出会いを楽しんでいただけたらと願っています。</p> </div>

(2) 人材育成に関する事業

① 県民ニーズに対応するためのサービス向上など資質向上研修の実施（生涯学習課）

事業名	<p style="text-align: center;">講習会 「みんなで音読 音読教室に挑戦！」</p> 	<p style="text-align: center;">研修会 「子供と読書」</p> 
日時	<p style="text-align: center;">8月27日（月） 10時30分～15時25分</p>	<p style="text-align: center;">10月29日（月） 10時30分～15時30分</p>
対象	<p>公共図書館職員・公民館図書室職員・社会福祉協議会職員・社会教育指導員・ボイスセラピスト</p>	<p>公共図書館職員・公民館図書室職員</p>
会場	<p>県立図書館 2階 研修ホール</p>	<p>県立図書館 2階 研修ホール</p>
内容	<p>高齢者サービスに関する事例報告、皆で詩や昔話などを声に出して読む音読教室に関する講義、体験等</p> <p>講師 中尾 美希子氏（鳥取県立図書館郷土資料課長）</p>	<p>図書館において子供へ本を手渡す技法等に関する講義、ワークショップ、事例発表等</p> <p>講師 伊藤明美氏（日本女子大学非常勤講師）</p>
参加者数	<p style="text-align: center;">70名（事務局除く）</p>	<p style="text-align: center;">75名（事務局除く）</p>
感想等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音読を体験し、体がポカポカしてきた。脳も活性化するという音読の進行役に早速挑戦したい。 ○ 音読単独の講座だけでなくイベント時にお試的に一作品だけすることも考えたい。 ○ 音読は、シニアの楽しみにもなり、認知症予防にもつながる。実施したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前アンケートへの講師の回答はなるほどと思うことがたくさんあった。 ○ 児童サービスについて地域を歩き、分析を行うなど長期的な戦略を立てなおしていきたい。 ○ 選書について改めて考えさせられました。

② 市町村立図書館及び僻地学校図書館等への運営助言（実施指導）のための講師派遣
（県立図書館）

平成28年度から、県内全ての市町村図書館・室を対象とし、図書館等の運営に係る支援や助言を行う定期訪問と、市町村図書館・室及びやまびこ文庫登録県立学校等を対象とし、各館・室、学校の要請に応じて行う要請訪問の2つを実施している。

○定期訪問

全市町村図書館・室を対象として実施し、やまびこ文庫登録図書館・室（計10館・室）については年3回（4月、9月、3月）、やまびこ文庫未登録図書館・室（計35館・室）に年1回の訪問を実施している。

訪問時には、「学校や地域との連携について」、「子ども読書活動推進計画策定について」、「日常の業務について」など、それぞれの館や室の抱える課題について協議や意見交換を行っている。

○要請訪問（平成30年度実績）

期日	訪問施設名	要請内容
5月21日	西都市立図書館	図書の装備、簡単な修理
5月23日	日南くろしお支援学校	読書活動支援
6月29日	高千穂町立図書館	学校図書館支援（西臼杵郡図書主任会出会）
8月21日	五ヶ瀬町教育委員会図書室	図書の修理
9月12日	宮崎市立図書館（教育委員会）	学校司書研修支援（著作権について）
9月12日	日南くろしお支援学校	読書活動支援
10月22日	高千穂町立図書館	イベント支援（学校における読書活動）
10月24日	高原町中央公民館図書室	学校司書研修支援
11月20日	都農町民図書館	読み聞かせの基礎
12月20日	諸塚村中央公民館図書室	子ども読書活動推進計画策定について
1月16日	日南くろしお支援学校	読書活動支援

③ 県教育研修センター主催 学校図書館に関する研修 (県教育研修センター)

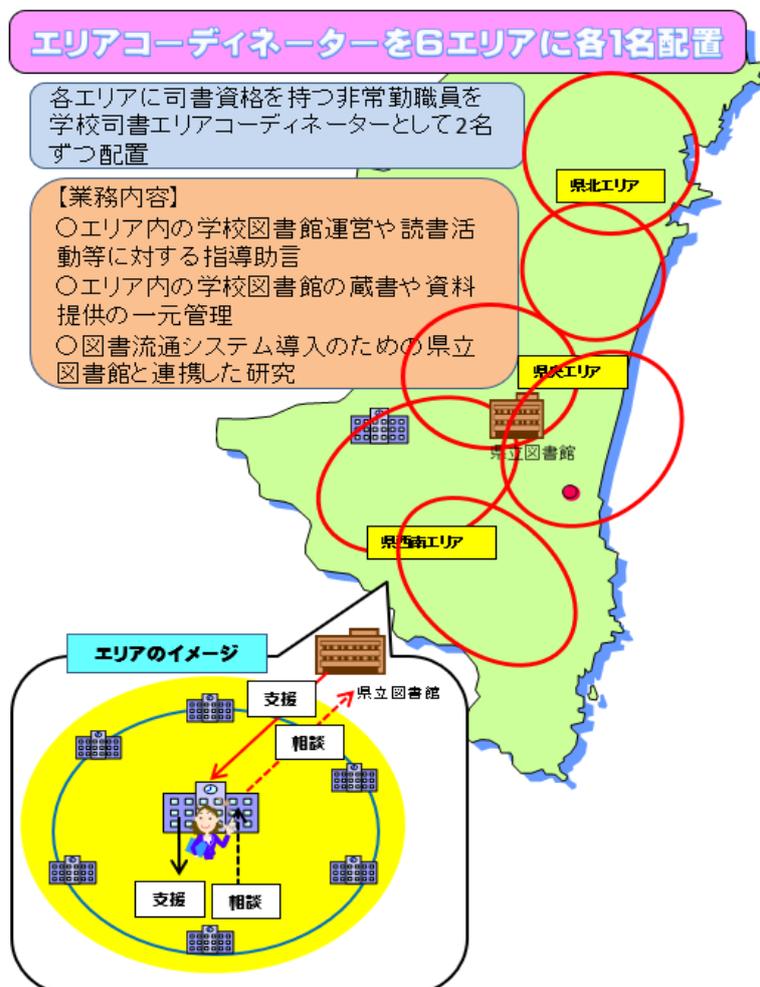
事業名	<p style="text-align: center;">課題対応研修</p> 	<p style="text-align: center;">サタ・スタ (土曜講座)</p> 
日時	10月26日(金)	10月27日(土)
対象	教職員、学校図書館関係職員	教職員、保護者、行政職員、一般
会場	県教育研修センター 研修ホール	県教育研修センター 研修ホール
内容	<p>「主体的・対話的で深い学びを実現する学校図書館の活用」</p> <p>○講義・実践発表 「学びと学校図書館をつなぐ事例発表」講師・発表者 県立図書館 社会教育主事、中学校 教諭</p> <p>○対談 「学校図書館の館長・校長に聞く、新学習指導要領時代の教育実践と学校図書館」対談者 鎌田和宏氏 (帝京大学教授)、小学校 校長</p> <p>○演習・協議・講義 「主体的・対話的で深い学びを実現する学校図書館の活用」 講師 鎌田和宏氏 (帝京大学教授)</p>	<p>「これからの子どもには問題解決に能力が必要！～読むこと、調べことを育てる学校図書館をどう使うか?～」</p> <p>講師 鎌田和宏氏 (帝京大学教授)</p>
参加者数	<p style="text-align: center;">41名</p> <p>(教職員31名、学校図書館関係職員10名)</p>	<p style="text-align: center;">69名</p> <p>(学校・行政名54名、保護者・一般15名)</p>
感想等	<p>○ 対談という形式がとても新鮮でした。お二人の話を聞くことで、いくつも気付くことがあった。</p> <p>○ 本日のような研修会の形を、今後計画している研修会でまねしてみたい。</p> <p>○ 教科の壁や学校種の違いを超えて、読書の大切さを伝えていくことが大切だと思った。また、年間計画の共有が必要だと分かった。</p>	<p>○ 読書の重要性、読書の習慣化の大切さについて深く考えることができた。</p> <p>○ 学校図書館は司書教諭や図書担当の教員の領分と考えがちだったが、学級担任の役割の重要性を再認識した。学校に持ち帰り、連携して学習センターとしての利用を意識していきたい。</p>

(3) 環境整備に関する事業

① 県立学校司書エリアコーディネーターの配置（高校教育課）

○目的・内容

司書資格を持つ「学校司書エリアコーディネーター」を配置することで、学校図書館を利用した学習活動や読書活動の活性化を図る。



○配置校

日向高等学校、富島高等学校、佐土原高等学校、宮崎南高校、宮崎商業高校、都城農業高等学校

○実績

- ・ エリア内の訪問では、配架の改善、除籍の助言などの環境整備、拠点校では、図書館を活用した授業の推進、進路指導の情報提供などをおして、学校図書館の「学習」「読書」「情報」センターとしての機能が向上した。
- ・ 他のエリア内の学校や県立図書館資料を取り寄せてよりニーズにあった情報提供ができるようになったほか、県立図書館の高度なレファレンス協力を得られるようになった。

○拠点校の感想

- ・ 自分が欲しいと思う資料があるかどうかをたずねると、いつも素早く対応してくださって、助かりました。ていねいに対応してくれたり、分からないことを教えてくれたりと、推薦受験をサポートしてくれました。ありがとうございました。（拠点校の高校生）
- ・ 本校にエリアコーディネーターが配置されて、図書館が「生きている」と感じるようになった。今まで暗い物置のような図書館が、生徒が本を読んだり、調べものをしたり、あるいは、おしゃべりをしたりして、生徒が集まる活気あふれる場所になった。（拠点校の校長先生）

② 読書活動推進リーダー・図書担当事務職員の配置（義務教育課）

○目的

生徒の読書活動の充実に担当職員を中心に全職員で取り組み、学校図書館の活用などに関する実践的研究を行うとともに、地域の読書活動推進支援校として、地域の読書活動を推進する。

○配置校等

5 グループ 25 校を読書活動推進校とする。

5 校に読書活動推進リーダーを、3 校に図書担当事務職員を、2 校に学校図書館活性化教員を配置する。

○内容

学校図書館が「読書センター」「学習センター」「情報センター」の機能をさらに充実させる取組を進めている。

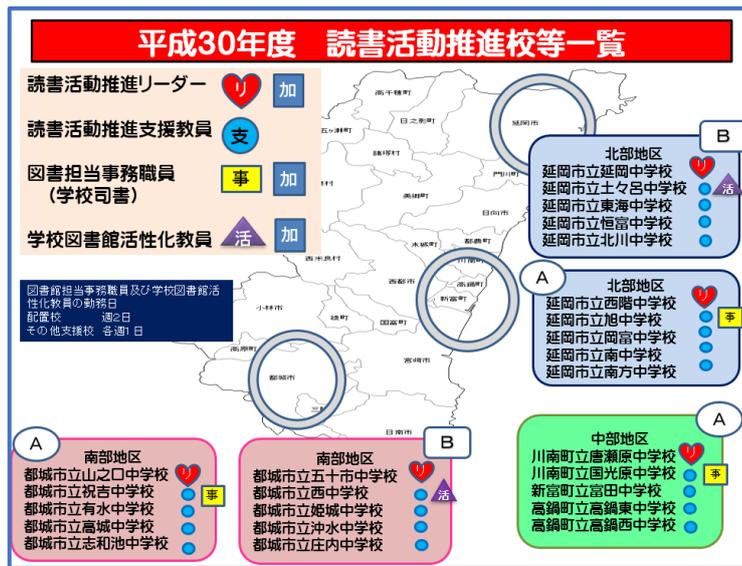
読書活動推進リーダーは 1 か月に 2 回程度推進校を訪問し、学校図書館の充実に向けたアドバイスを行う。

図書担当事務職員及び学校図書館活性化教員は 1 週間に 1 回推進校を訪問し、学校図書館の環境整備や授業で取り扱う図書の準備等を行う。

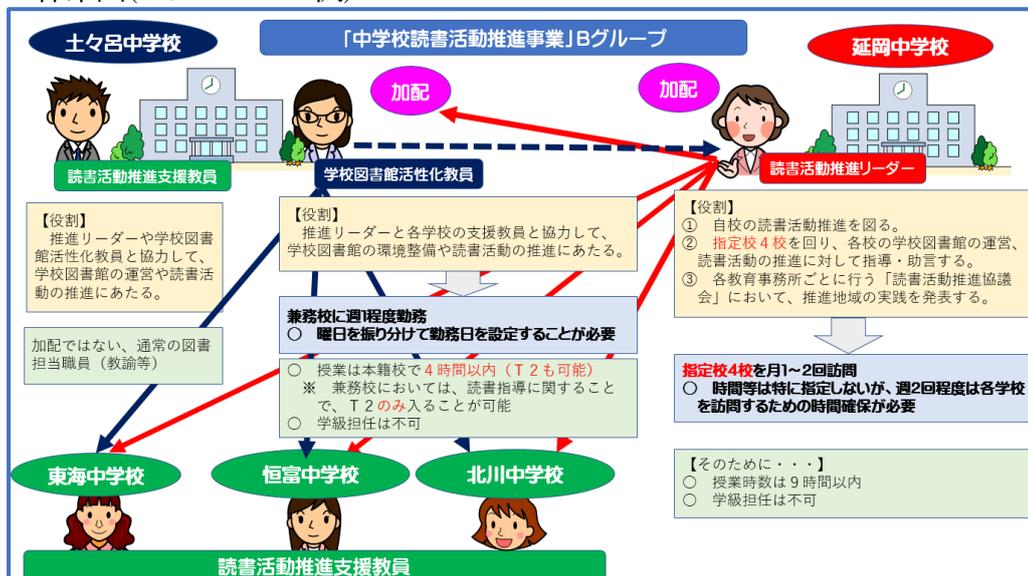
○実績

実績として、推進校の学校図書館の利用者数や読書量については確実に伸びている。読書量については、最も多い学校では 4 倍近い伸びを示している。最も多い中学校では年間 13,000 冊の貸出があり、一人あたりに換算すると 40 冊以上の貸出実績がある。

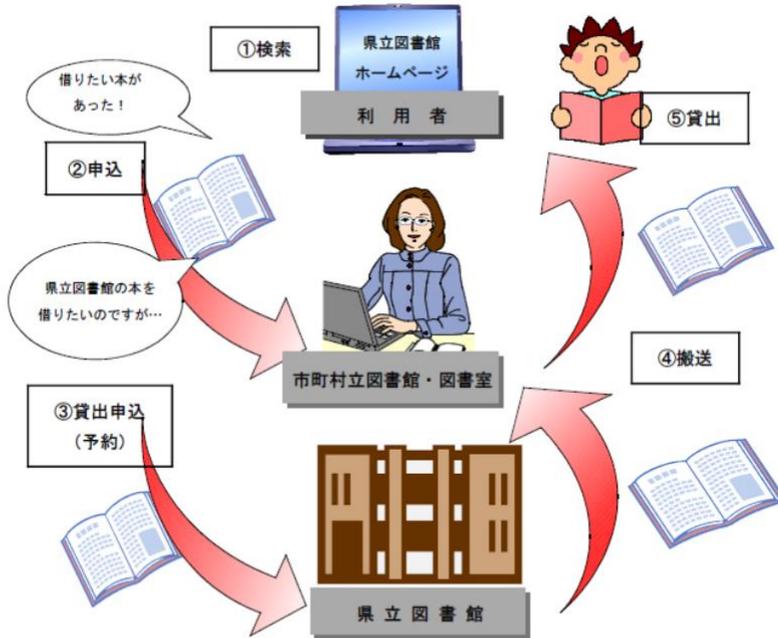
全体体系図



(グループ体系図(Bグループの例))



- ③ 県民のニーズに対応した迅速な流通システム（マイラインサービス）（県立図書館）
 県立図書館の本を 26 自治体の図書館 24 館、図書室 12 館を通じて取り寄せることができる。
 県立高校 8 校、大学 1 校もサービス対象となっている。



実績

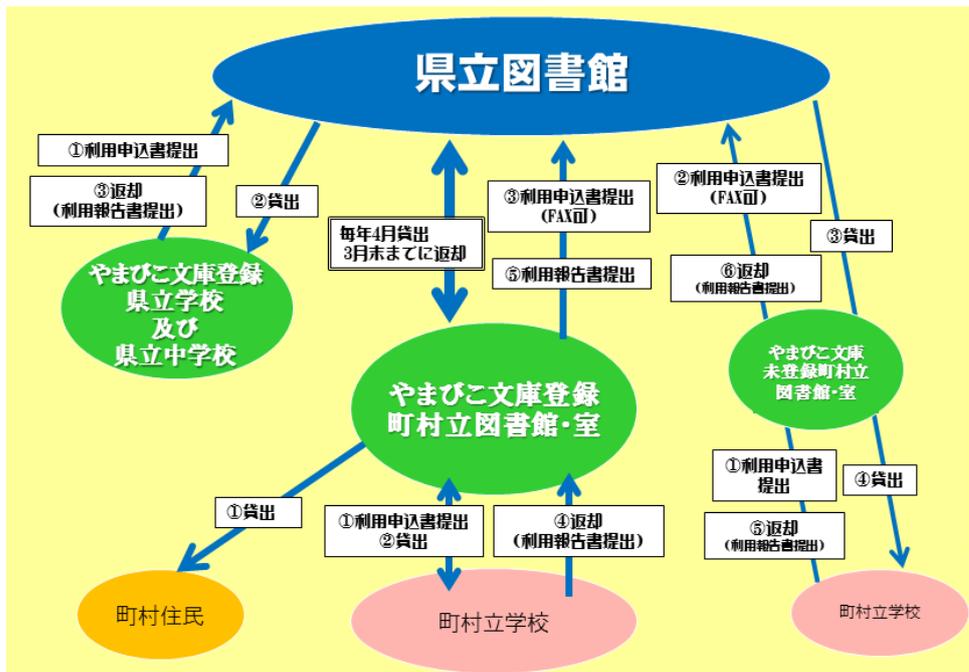
H30 年度貸出数
 (H30.12 月現在)
 5,561 冊

平成 29 年度年間貸出数
 6,351 冊

- ④ 図書館未設置自治体等の図書セット貸出（県立図書館）

○目的

町村立図書館及び学校に対する支援のために有するセット文庫を活用し、読書活動や調べ学習活動を支援する図書を貸し出し、読書環境の充実を図る。



実績

H30 年度貸出数
 (H31.1 月現在)
 41,100 冊

H29 年度年間貸出数
 42,710 冊